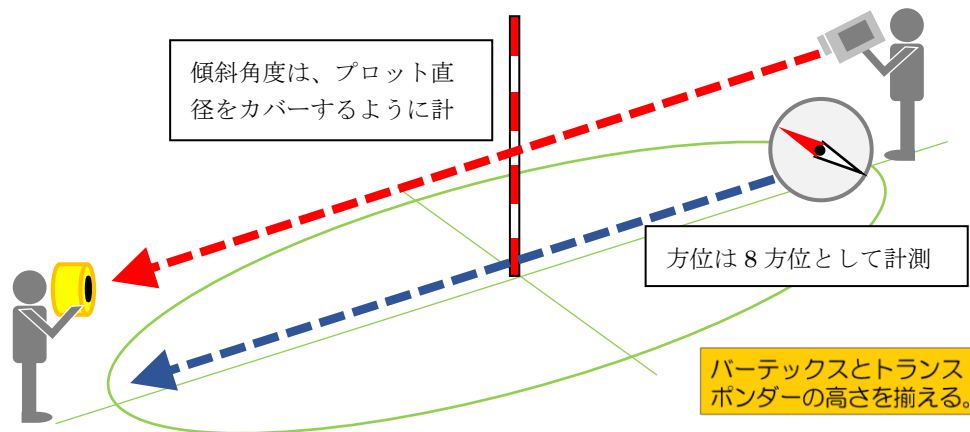


5-3-4 経緯度の記録

- プロット中心にて、計測した経緯度を野帳項目②に記入する。GPS ログデータ取得を終了し、保存しておく。(GPS が不安定で、対象小班外にデータが落ちている場合は、プロット中心点で数分程度、GPS 測位の平均化を行った座標値を記入する。)

5-3-5 傾斜角度、斜面方位の測定

- 野帳項目②に記入する。
- プロットの傾斜角度は、プロット内の斜面上方から中心ポールをとおり下方に向かい、プロット直径をカバーするように計測する。プロット全体の平均傾斜角となるように、直径長で計測する。最下端に補助員に立ってもらい、最上部付近から計測する。(あらかじめトランスポンダを設置する高さやバーテックスの高さ設定を合わせておく。)
- 斜面方位は、オリエンテーリングコンパスを手にもち、尾根側を背にして立ち、**斜面の方向を「N、NE、E、SE、S、SW、W、NW」の 8 方位**として計測する。



傾斜角度の計測範囲と斜面方位の方向

5-3-6 伐根の腐朽度に関する調査

- 調査プロットの伐根のうち (プロット内にはない場合は周辺の伐根)、最も新しい伐根と思われるものについて、伐根の腐朽度に関する調査を実施する (野帳項目⑩-1)。また、それを含む新しいものから 3 伐根の年輪数を計測する (野帳項目⑩-2)。
- 年輪数は可能な限り読み取り、何年以上あるということがわかるように、**○年+と“+”をつけるようにすること。**苔などで年輪が読みづらい場合は表面を鉋でそぎ落とすか、鋸で切断のうえ、年輪を読むようにする。
- 写真は調査した伐根全てを撮影する。…5-2-2 参照

5-3-7 林分の状況に関する調査

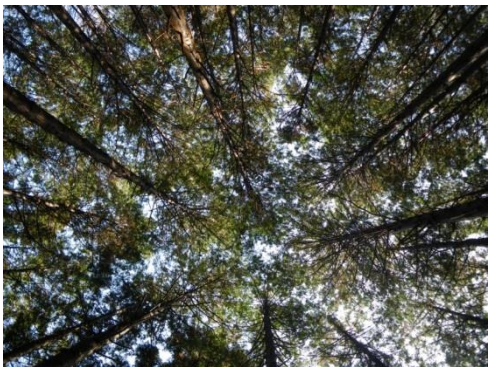
- ・ 林分の状況に関する調査を実施し、野帳項目⑥、⑧-1、⑧-2、⑪、⑫に記入する
- ・ 【階層構造】 草本層植被率の目安（野帳項目⑧-1）

草本層植被率の目安

被度 10%未満	被度 10～30%未満
	
被度 30～50%未満	被度 50～80%未満
	
被度 80～100%	
	

- ・ 【階層構造】 高木層植被率の目安（野帳項目⑧-1）

高木層植被率の目安

スギ 90～95%（うっぺい）	スギ 75%～85%（うっぺい）
	
スギ 70～75%（ややうっぺい）	スギ 60%（やや疎）
	
スギ 40%（疎）	ヒノキ 95%～（うっぺい）
	

ヒノキ 85～95% (うっぺい)	ヒノキ 70～80% (ややうっぺい)
	
カラマツ 90%～ (うっぺい)	カラマツ (冬) 80～90% (うっぺい)
	
クロマツ 60～65% (やや疎)	アカマツ 60～65% (やや疎) 亜高木層あり 40%
	

- ・ 被度は各階層で見た場合の割合を記入する（記入は5%単位）。
- ・ 冬は落葉していることを念頭に置いて記入する。